

あなたの薬は「良薬」ですか？

市販後調査は 薬剤師の責務でもある

薬学では、新たな医薬品を開発し、それが製品となるまでの過程を創薬と呼んでいます。福島恵造助教は、創薬後のフォローにあたる「市販後調査」を行っています。分かりやすく言えば、病院などとタイアップし、薬の服用で副作用などが生じた場合、大学に持ち帰ってそのメカニズムを調べ、原因解明にあたる研究です。

薬学部助教 福島 恵造 Keizo Fukushima



近年、個人の遺伝子の差異に着目して投薬や治療を行う「テーラード医療」がいわれられています。でも、それは一般的には個人差を指しており、一人の患者のその時々の状態の差異を考慮したものではありません。しかし、実際に薬物治療を受ける患者には、合併症の有無や、肝・腎機能の状態などさまざまな違いがあります。「こうしたことを踏まえながら、特定の患者の、その時、その時の病態を考慮して投薬、治療を行うことこそが、真のテーラード医療なのです」と福島助教。

「薬が患者の手元に届くまでには、膨大な時間と労力、コストが費やされ、最終的に国の厳しい審査をパスする必要があります。それでも、医療現場で起きた副作用の事例が報告されています」と福島助教。当然ながら、製薬企業は、医薬品の開発段階で副作用をできるだけ少なくするよう、医薬品候補の選定や、用法・用量の決定

をするなど最善を尽くしますが、「絶対安全」の良薬を創るのは容易ではありません。副作用が出る、別の理由もあります。医薬品の開発段階では調査しきれなかった特殊なケースが存在するからです。福島助教は「薬同士の飲み合わせがあるように、病気と薬にも相性があります。製薬企業も市販後調査をしますが、患者に直接薬をお渡しする私たち薬剤師も事後のフォローをする責任があります」といいます。また、「個々の患者の態様は千差万別。同じ薬でもよく効く人、効かない人、あるいは副作用が出てしまう人もいます。病気と薬の相互作用については、まだまだ分からないことも多いのですが、それらを精査し、目の前の患者に最も適した薬物療法を提供することは、薬のエキスパートである薬剤師の職責です」と話します。

副作用が出る、別の理由もあり

学生には、問題解決能力を 在学中に身に付けてほしい

福島助教は、「臨床現場を知らずして臨床に還元できるのか」と



の思いから、臨床薬学科修士課程へ進み、大学院の薬剤部に在籍。そこでまず自分の無力さを痛感したといいます。「薬剤師免許を取得し、一人前のつもりでしたが、目の前の患者に対して何もできない。薬剤師として、研究者として、何ができるのかを自問することが、本当の意味でのスタートラインでした」と振り返ります。研究室では、長期にわたって栄養素を静脈から投与されている患者の「消化管萎縮時における薬物体内動態変動」や、メタボリックシンドローム患者の薬物動態、抗うつ薬の適正使用などの研究にも取り組んでいます。

福島助教は「薬学部生の進路は、病院、薬局、企業、公務員など多岐にわたります。どんな職業に就こうとも、必ず知らないこと、分からないことにぶつかります。そうした時の問題解決能力を在学中に学んでほしい」と、学生に熱いエールを送っています。

元気なパワーを未来のために

神戸学院大学

法学部 経済学部 経営学部 人文学部 総合リハビリテーション学部 栄養学部 薬学部 大学院

有瀬キャンパス 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 Tel.078-974-1551 (代)
ポートアイランドキャンパス 〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3 Tel.078-974-1551 (代)
長田キャンパス(法科大学院) 〒653-0862 神戸市長田区西山町2-3-3 Tel.078-691-4888 (代)

100
KOBEGAKUIN SINCE 1912

学校法人神戸学院は
2012年に100周年を迎えました。